

## 第4回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日時 2015年1月19日(月) 17:00~20:00

場所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 第二大会議室

### 1. 燃料デブリ取り出し工法の課題検討状況について

東京電力、IRIDより、燃料デブリ取り出し工法の課題検討状況について以下の通り説明があった。

- 東京電力より、前回提示した燃料デブリ取り出し作業にかかわる線量率の計算について、指摘された点を修正し、既存の解析結果と整合させつつ現状の線量率の推定を行い、R/B内の主要部の線量率の保守的評価を実施した旨の説明があった。
- IRIDより、PCV補修に関する、1/2スケール止水材試験についての現状の進捗状況と、今後の検討の課題として挙げるべき点を抽出した旨の説明があった。
- IRIDより、燃料デブリの標準化については、デブリの再臨界にかかわる検討、輸送・保管・計量といった検討にも関わるプロジェクトであり、TMIのデブリの調査結果に1Fの状況、これまで検討が進んでいる解析コードの結果を反映しながら、燃料デブリの性状・特性把握を進めている旨の説明があった。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- 原子炉建屋内の線量評価について、解析と現状の測定からの分布の評価が進んでいることが見て取れるが、更に、除染・浄化で回収したセシウムのインベントリから評価したものととの整合性も見てみるとよいと思われる。
- 止水技術開発の試験について、条件を確認しながら進めるとともに、工法選定まで時間があまりない中で、止水を行うための装置の開発も含めて検討し、着実に進めること。
- 溶融後の燃料デブリの例としてTMIを参照しているが、TMIはPWRの例であるため、たとえば別のBWRを基にしたコード等で組成を見ることも有効。今回の1Fの現象では、特に原子炉下部について不明点が多いため、CRDを含む溶融物の推定等行うとともに、燃料デブリを切り出す方法を検討しているプロジェクトと情報交換を行うこと。

### 2. 燃料デブリ取り出し関連の研究開発等の計画について

資源エネルギー庁、NDFより、燃料デブリ取り出し関連の研究開発等の計画について以下の通り説明があった。

- 国が支援する研究開発事業について、今年度の実施状況、予算・調整状況などを踏まえた来年度の実施計画を検討済みであり、継続して進めていく。
- 燃料デブリ取り出しに関わる研究開発について、実施中の開発の進捗を管理するとともに、今後発生する新たな研究開発が必要な項目について国の支援事業として追加できるよう整理していく。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- NDF が横断的に研究開発を管理していくにあたり、現状国の支援事業が予定通りに進むとの想定で計画が立てられているが、報告書の結果だけでなく、随所の課題等も共有し最適化されることを望む。またその中で、評価にメリハリをつけ、継続事業と縮小・終了事業の判断、明確化を進められることを望む。
- 作業項目の分担の明確化をぜひ進めていただくとともに、今後の検討の中で、適切に工法やシナリオの選定をしていくための重要な判断ポイントが明確になるようにしていただきたい。
- 工法を決めるということについて、さらに検討されること、また各号機によって進み方や選定される工法も変わってき得ると思われるため、作業の詳細化も号機毎にまとめていくことを期待する。

### 3. その他

- デブリ取り出し工法の概要について
- 次回の日程について

以 上